

ならやまの四季の昆虫

ならやまにはたくさんの種類の昆虫がいます。その中から100種類あまりの昆虫をえらび、現れる季節の順番に解説しました。しかし、春に現れるとして取り上げた昆虫でも、初冬(しょとう)までほぼ年中活動している昆虫も少なくありません。また、夏のところで取り上げた昆虫でも、春から活動しているものもたくさんいます。同じ種類の昆虫でも、オスとメスで色や形の違うものや、春秋両方の季節の活動のしかたがちがうものがあります。成虫だけでなく、幼虫(ようちゅう)などの姿(すがた)も観察してほしい昆虫たちについては、1種類で複数の写真を添えました。



◆早春…………… (そうしゅん=寒さの残る春の入り口です)



春、真っ先に姿を現すのは、成虫で越冬(えっとう=冬を越すこと)していた昆虫たちです。春が来るのを待ちわびていたと思います。特に目につくのはチョウ類で、春とは名ばかりの早春のまだ寒いころでも、日だまりではねをいっぱい開いて日光浴(にっこうよく=ひなたぼっこのこと)をしている姿をよく目にします。

ルリタテハ、アカタテハ、キタテハ、ムラサキシジミ、ウラギンシジミ、キタキチョウ、テングチョウなどです。

ナナホシテントウ、イタドリハムシなどは草の根元(ねもと)などで越冬していて、春早くから活動を始めます。

ルリタテハ



3月～11月、中型。夏型と秋型があります。

はねの切れ込みは夏型は浅く、秋型は深い、いちじるしくはありません。はねのうらは地味(じみ)な色です。成虫で越冬します。

幼虫の食べ物はサルトリイバラなどユリ科植物です。

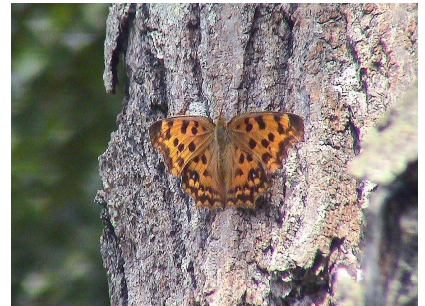
アカタテハ



3月～11月、中型。花やクヌギなどの樹液(じゅえき)にきます。

はねのうらの模様(もよう)は地味です。成虫で越冬。冬でもおだやかな日には日だまりで日光浴をしています。幼虫の食べ物はイラクサなどです。

キタテハ



3月～11月、中型。花にもよくきます。夏型と秋型があります。

夏型のはねは、おもて・うらとも黒ずんだ黄色で、ふちの切れ込みは浅く、秋型は黒ずんだ茶色で、ふちの切れ込みは深いです。

成虫で越冬します。幼虫の食べ物はカナムグラです。

ムラサキシジミ



3月～11月、小型。はねのうらは、たいへん地味な色です。成虫で越冬し、カシ類のしげったところに多くいます。

ウラギンシジミ (メス)



3月～11月、小型。はねのうらは白色で、オスのおもては朱色(しゅいろ)、メスはうす青色をしています。

キタキチョウ



3月～11月、やや中型。成虫で越冬します。はねの表面の縁(ふち)には黒色の帯があります。いろいろな花の蜜(みつ)を吸ったり、地面の水を吸ったりします。

テングチョウ



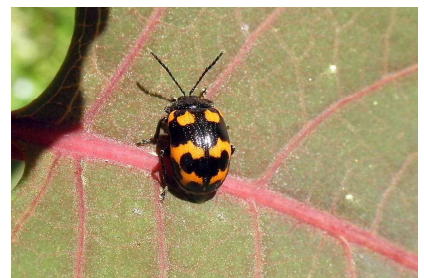
3月～11月、19～29mm。成虫で越冬。早春から現れ、真夏には休眠(きゅうみん)します。頭が天狗(てんぐ)の鼻のように突き出ています。

ナナホシテントウ



3月～11月、5～8mm。幼虫・成虫ともに、農作物を害(がい)するアブラムシを食べるので、益虫(えきちゅう)とされています。成虫で越冬します。

イタドリハムシ



3月～9月、8～10mm。イタドリやギンギシについています。幼虫もイタドリなどを食べます。模様(もよう)には同じ種類でもかなり違いがあります。成虫で越冬します。

3月下旬からさなぎや幼虫で越冬していたチョウが現れます。モンシロチョウ、モンキチョウ、ヤマトシジミ、ベニシジミ、ツバメシジミ、アゲハチョウ、キアゲハなどです。

モンシロチョウ



3月～11月、中型。菜(な)の花によくきます。幼虫の食べ物はアブラナ科植物です。さなぎで越冬します。

モンキチョウ



3月～11月、中型。メスにははねの色が、白色に近いものがあります。幼虫の食べ物はシロツメクサなど。さなぎで越冬します。

ミヤマセセリ



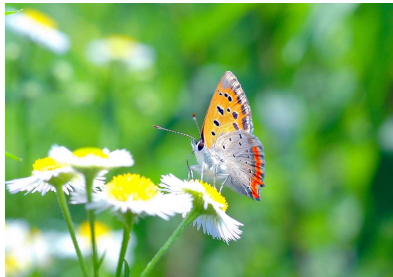
3月～6月、セセリチョウとしては大型で、はねを開いて止まります。幼虫で越冬します。

ヤマトシジミ



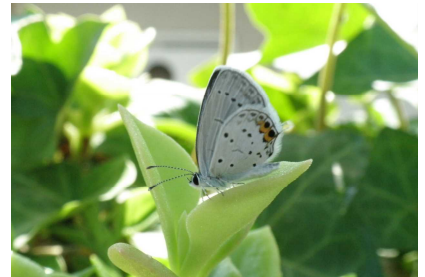
3月～11月、ごく小型。地上のごく低いところを飛びます。幼虫で越冬します。幼虫の食べ物はカタバミです。

ベニシジミ



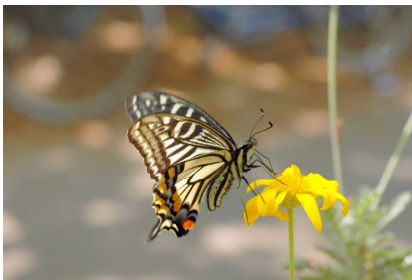
3月～11月、小型。春型と夏型があります。幼虫で越冬し、幼虫の食べ物はスイバなどです。

ツバメシジミ



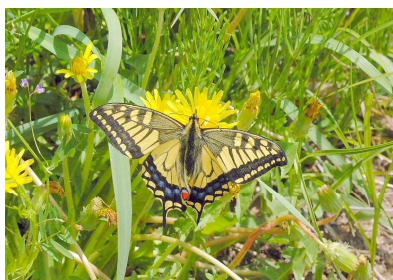
3月～11月、小型。後ろばねに尾のようなものがあります。幼虫の食べ物はマメ科植物の芽(め)、花など。幼虫で越冬します。

アゲハチョウ



3月～11月、大型。春型と夏型があります。春型は小さく、色はあざやかです。夏型は大きく、色は少し暗いです。さなぎで越冬します。幼虫の食べ物はミカン類です。

キアゲハ



3月～11月、大型。黄色みがあざやかです。春型と夏型があり、アゲハチョウとほぼ同じです。さなぎで越冬します。幼虫の食べ物はセリ、ニンジンなどセリ科植物です。

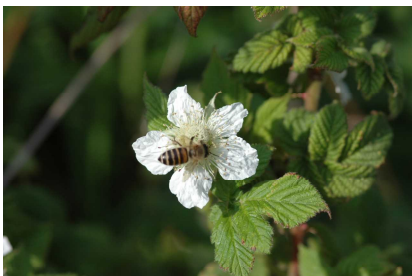
モンキアゲハ



4月～10月、アゲハチョウ科の中でも大型。後ろばねに黄色みを帯(お)びた白い模様(もよう)があります。幼虫の食べ物はカラスザンショウなどです。

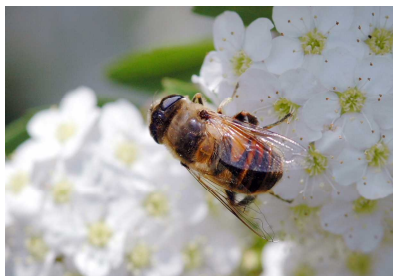
セイヨウミツバチ、ナミハナアブ、オオハナアブなどのハチやハナアブ類も春早くから花にやってきます。

セイヨウミツバチ



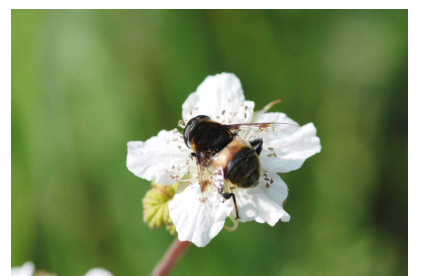
3月～11月、13～17mm。おなじみのハチで、冬も巣の中で生きています。女王バチを中心に集まって生活しています。

ナミハナアブ (ハナアブ)



3月～11月、約15mm。花にきます。成虫で越冬します。人や家畜(かちく)に無害で、ハナアブ類に共通しています。

オオハナアブ



4月～11月、約15mm。ハナアブのなかまです。名前に「オオ＝大」がついていますが、特に大きくはなく、成虫で越冬します。

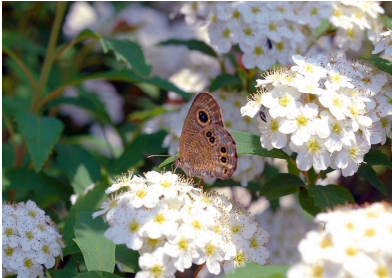
少しするとツマキチョウ、ヒメウラナミジャノメ、トラフシジミなどのチョウが現れます。ツマキチョウはモンシロチョウを少し小さくしたくらいの大きさで、前ばねの先にオスはオレンジ色、メスは黒っぽい色の模様(もよう)があります。飛んでいるときは白く見え、モンシロチョウとまちがいがやすいです。現れる期間も短いです。

ツマキチョウ (オス)



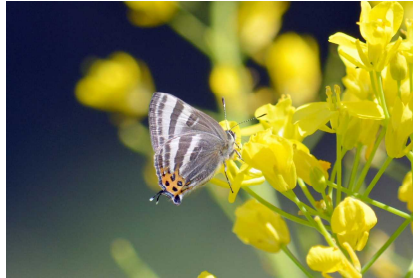
ならやまでは4月終わりころの短期間現れます。20~30mm。直線状に飛びます。幼虫の食べ物は、タネツケバナなどです。

ヒメウラナミジャノメ



5月~9月、小型のジャノメチョウです。幼虫の食べ物は、チヂミザサなどイネ科植物です。

トラフシジミ



4月~8月、16~22mm。春型と夏型があり、春型はあざやかで、夏型はあざやかさが欠けます。幼虫の食べ物はクズ、フジなどのつぼみや花です。

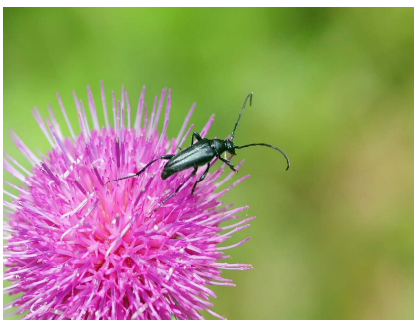
◆春たけなわのころ…… (春の真っさかりです)

春もたけなわになると、クロハナカミキリ、アカガネサルハムシ、クロボシツツハムシなどの甲虫(こうちゅう)が現れます。



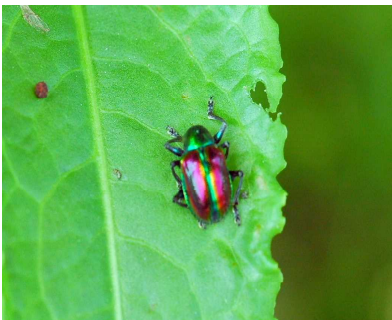
「甲虫」とは、前ばねが変形して堅くなって、体全体が堅い殻で甲羅(こうら)のように覆われています。薄くて大きい後ろばねと腹部をまもる役割をしています。カブトムシ、クワガタムシ、コガネムシ、カミキリムシなどです。世界で約30万種、日本では、約8000種が知られています。

クロハナカミキリ



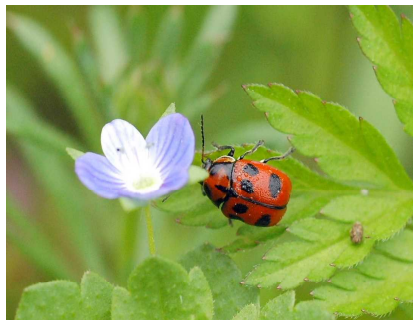
6月~8月、小型のカミキリムシで、花によく集まっています。

アカガネサルハムシ



5月~8月、6~8mm。小型ですが、たいへん美しいハムシです。ブドウやエビヅルなどの葉を食べます。

クロボシツツハムシ



4月~8月、5~6mm。成虫・幼虫ともに、クヌギやハンノキの葉を食べます。

オグマサナエ、シオヤトンボなどのトンボ類、ホソヘリカメムシ、ナガメなどのカメムシ類、ハンミョウ、クマバチも現れます。

オグマサナエ



4月～6月、中型のトンボ。サナエトンボの名は、イネが早苗(さなえ)のころに現れるからです。

シオヤトンボ (オス)



4月～7月、シオカラトンボを小型にしたようなトンボです。トンボとしては現れる時期が早く、メスは黒ずんだ黄色です。

ハンミョウ



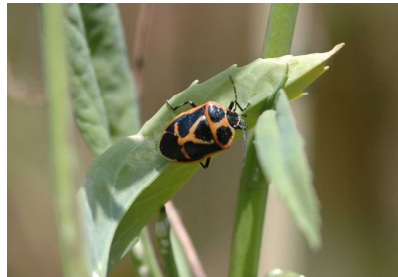
4月～10月、約20mm。たいへん美しく、草の生えていない地面にいます。成虫、幼虫ともに虫を食べます。

ホソヘリカメムシ



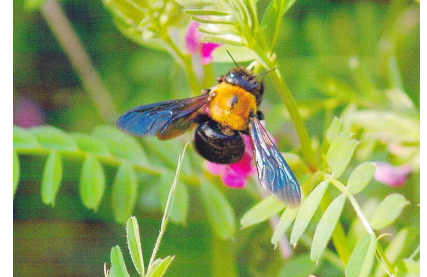
4月～10月、14～17mm。体が細いので小さく感じます。よく動き回り、よく飛びます。

ナガメ



4月～10月、約9mm。アブラナ科の植物につきます。名前は、菜(な)の花につくカメムシという意味です。

クマバチ



3月～10月、20～24mm。丸いので大きく見えます。空中で停止(ホバリング)しているのはオスです。

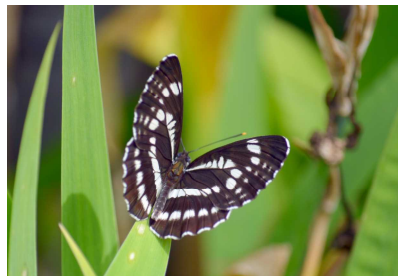
コムスジ、ホシミスジ、コジャノメも出てきます。

コムスジ



4月～10月、中型。ひらひらとゆっくり飛ぶので、よく目につきます。幼虫の食べ物は、いろいろなマメ科植物です。

ホシミスジ



4月～10月、中型。コムスジよりやや大きいです。幼虫の食べ物はユキヤナギ、シモツケ、コデマリなどです。

コジャノメ



5月～9月、中型。雑木林(ぞうきばやし)のまわりの草むらでよく見られます。幼虫の食べ物はチヂミザサ、ススキなどです。

◆晩春…………… (ばんしゅん=春の終わりで、もうすぐ夏になります)

花の上に、ベニカミキリ、タケトラカミキリ、コアオハナムグリなどの甲虫類、ヤブキリの幼虫、ヨモギやキクにはキクスイカミキリ、クヌギなどの葉にはヒメクロオトシブミが見られます。

ベニカミキリ



4月～6月、小型のカミキリムシで花に集まります。幼虫はタケの中で生育し、9月ごろに羽化(うか)しますが、そのまま越冬し、次の年の春に出てきます。

タケトラカミキリ



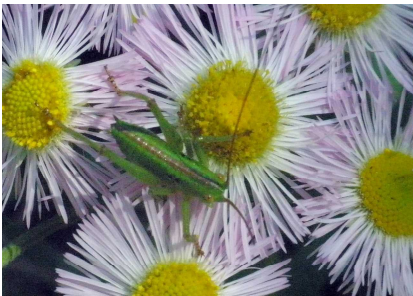
6月～8月、小型のカミキリムシで、タケのあるところによく見られますが、花にもきます。幼虫は枯れたタケで生育し、よく動き回ります。

コアオハナムグリ



4月～10月、小型のコガネムシで、花にむらがっています。体の色には、緑色から赤みがかかったものまでいます。

ヤブキリ (幼虫)



ヤブキリは、大型のキリギリス類です。成虫は背の高い草原や木の上において、他の昆虫類を捕えて食べます。幼虫は花にきて花粉を食べます。

キクスイカミキリ



4月～7月、ごく小型のカミキリムシです。ヨモギやキクなどのキク科植物によくきます。ヨモギなどの茎(くき)の先が折れまがって、しおれているのは、この昆虫のメスが産卵(さんらん)したためです。幼虫はその茎(くき)の中で育ちます。

ヒメクロオトシブミ



4月～8月。約5mm。5月ごろ、コナラ、クヌギなどの葉をたくみに丸めて、その中に産卵(さんらん)します。ふ化(孵化=P40で説明)した幼虫は、巻(ま)かれた葉を食べて生育します。



「オトシブミ」という名前は、「落とし文(おとしぶみ)」からつけられました。昔は、公然(こうぜん)といえないことを書いて、わざと道に落としておいた書き物のことです。オトシブミが作る木の葉の包(つつ)みが、あたかも「落とし文」に似ているところからつけた名前だそうです。